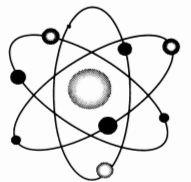


シリーズ第2回

ジエンダーは何？



世界の中の日本

国際学部教授 椎野 信雄



前回に紹介した UNDP (国連開発計画) の公表する GEM 以外にも、

国際社会の世界全体における日本の姿を示す調査データが幾つかあります。日本の大学生の多くは、次のような日本のイメージを持って高校を卒業してきているようです。日本は、先進国の一つで、経済大国であり、国民の生活水準は高く、欧米と同じように豊かな社会を享受している世界に冠たる国である、という素朴なイメージです。調査データには、このようなイメージを支持するものもあり、そうではない事実を示すものもあります。認知度は高くないようです。

尺度として代表的な GDP (国内総生産) について 2007 年の世界全体の GDP (世界銀行調べ) は、54 兆 3 476 億ドルで、世界第一位のアメリカ合衆国が 13 兆 8112 億ドル (世界の約 25%)、日本は世界第 2 位の 4 兆 3767 億ドルで、以下ドイツ・中国・イギリス・フランス・イタリア・ブラジル・ロシア・インドとなっています。(EU27ヶ国合計は 16 兆 7525 億ドルで、アメリカ合衆国を抜いています。) 確かに経済大国日本の姿を示しています。(もともと世界の GDP に占める日本の割合は、1994 年の最高 17.8% から 2007 年は 8.1% に下降しています。) ところがもう一つの指標「国民一人当たりの GDP」を見ると、第 1 位はルクセンブルグ (9 万 9879 ドル) で、以下ノルウェー・アイスランド・アイルランド・サンマリノ・デンマーク・スイス・カタール・スウェーデン・フィンランドであり、アメリカ合衆国 (4 万 5790 ドル) は 12 位に後退し、日本 (3 万 4254 ドル) は 23 位とな

り、アジアでは 22 位のシンガポール (3 万 5160 ドル) に抜かれています。格差社会が問題となっていますが、国民の所得格差を示す指標である「ジニ係数」(2005 年計算) を見ると、格差が小さい第 1 位はデンマーク (0.247)、日本は第 2 位 (0.249)、以下スウェーデン・チェコ・ノルウェー・スロバキア・ボスニアヘルツェゴビナ・ハンガリー・フィンランド・ウクライナです。日本はジニ係数では格差が小さい国なのです。しかし、所得格差を示すもう一つの指標 (OECD の)「貧困率」(2000 年) (生産年齢人口の可処分所得の中央値の半分以下の割合) では、第 1 位がアメリカ合衆国 (13.7%) で第 2 位が日本 (13.5%)、第 3 位がアイルランド (11.9%)、以下イタリア・カナダ・ポルトガル・ニュージーランド・イギリス・オーストラリア (8.6%)・ドイツ・ノルウェーとなっています。(世界平均は 8.4%)。日本は(相対的)貧困率が高い国なのです。

また米政府出資の国際非営利調査機関「ワールド・バリュース・サーベイ WVS」は 2008 年に約 100 ヶ国を対象とした「(主観的)幸福度調査」の結果を発表しています。第 1 位は、デンマーク、以下プエルトリコ(米自治領)・コロンビア・アイスランド・北アイルランド(英国)・アイルランド・スイス・オランダ・カナダ・オーストリアで、日本は 43 位です。また 2006 年の英国レスター大学のエードリアン・ホワイト氏の「国民の幸福度」調査 (17ヶ国) の研究結果でも、一位がデンマークで、以下スイス・オーストリア・アイスランド・バハマ・フィンランド・スウェーデン・ブータン・ブルネイダルサラーム・カナダであり、日本はなんと 90 位です。さらにスイスの国際経営開発研究所 (IMD) が 2008 年に発表した「2007 年度国際競争力ランキング」は、第 1 位米国、以下シンガポール・香港・ルクセンブルグ・デンマーク・スイス・アイスランド・オランダ・スウェーデン・カナダであり、日本は 24 位です。(中国 15 位、台湾 18 位、マレーシア 23 位。)(日本は 2006 年度版では 16 位、2005 年度版では 7 位であったのだが。)

こうしたデータで、日本が経済大国だというイメージだけでは現実の姿を把握できないことを確認して、ジエンダーについて考えてみたいと思います。